

特集

慢性疼痛と リハビリテーション

リハビリテーション治療においては、慢性疼痛が阻害因子となることがあり、そのコントロールがリハビリテーションの結果を左右することも少なくありません。今回の特集では、最新の知見をもとに慢性疼痛の病態や代表的な治療方法、リハビリテーションを実施するうえでの課題やポイントについて解説していただきました。

総論 松原貴子氏ら.....465

慢性痛の定義や特徴、発症メカニズム、治療、リハビリテーションなどについて詳細に解説していただいた。また、多面的・包括的な痛みの評価方法についても、具体的に示していただいた。慢性痛では、患者自らの行動、生活をセルフマネジメントできることが非常に重要であり、そのための患者教育が必須である。

薬物療法 木村慎二氏.....477

慢性疼痛においては、炎症性および器質的疾患、もしくは精神科疾患などがみられる場合には適切な薬物療法をできる限り短期に行い、疼痛緩和、ADL・QOLの改善を目指すことが重要である。今回は慢性腰痛、変形性膝・股関節症を中心に、具体的な薬物の種類や使用方法、リハビリテーションを行う際の注意点などについて紹介いただいた。

ニュース	地域協議会わずか6%—障害者差別解消法の実効性.....	475
	5 国試の合格発表.....	482
	成年後見促進法が成立—高齢化で利用拡大へ.....	504
	障害者差別なくそう—解消法施行、条例制定も相次ぐ.....	511
	重症障害児者に422施設「診療可」—静岡県調査「予想より多い」.....	516
	「ノーマライゼーション・障害者の福祉」4月号特集目次.....	528
	重症心身障害者の受け入れできず、看護職員確保に課題—県内事業所初の実態調査（長野県）.....	529
	不安なく出掛けよう—アプリでバリア情報共有（日本財団）.....	541

物理療法と運動療法 庄本康治氏.....483

慢性疼痛を物理療法だけで治療することはありえない。鎮痛効果がある間に運動療法や認知行動療法、教育的アプローチなどを展開していく必要があることはいうまでもない。物理療法の基礎的理論を理解して、正しい技術で実施することが重要であり、今回は TENS と超音波治療について、詳細な報告をしていただいた。

神経ブロック療法 田邊 豊氏.....493

疼痛治療における神経ブロック療法は、運動療法をうまく組み合わせることで相乗効果が期待できる。神経ブロックの種類や作用機序、適応、注意点などについて、ペインクリニックにおける豊富な経験をもとに述べていただいた。星状神経節ブロックなどの主な神経ブロックについては、具体的な手技にも触れられている。

認知行動療法—日々のリハビリテーション臨床に

役立てるための全体像の理解 細井昌子氏ら.....499

慢性疼痛において認知行動療法が有用であることは、国際的にもエビデンスが確立している。今回は、日常診療に導入しやすい第一世代の考え方を中心に、第二世代、第三世代の認知行動療法についても解説いただいた。慢性疼痛領域の認知行動療法的介入に多くのリハビリテーション関係者が興味をもち、日々の診療に導入することを期待したい。

お知らせ FTEX Institute 第 19 回全体研修会.....492

東京開催「ADL 評価法 FIM 講習会」.....529